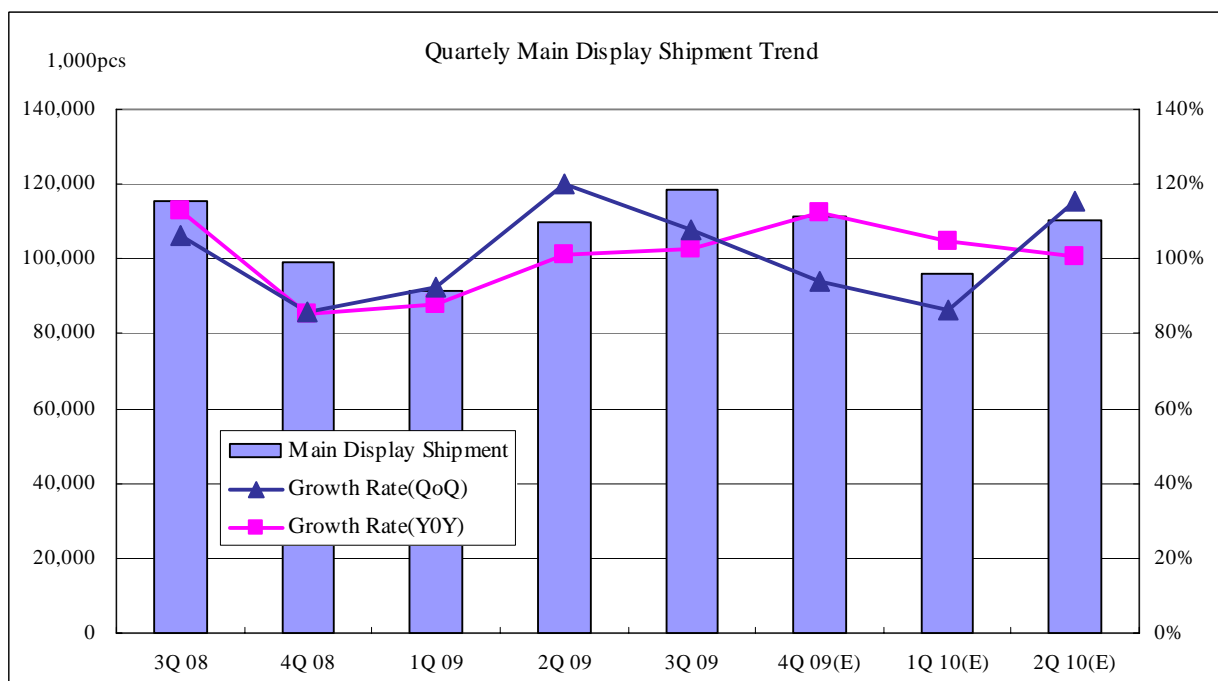


## 2009年携帯電話向けメインディスプレイの総出荷は13億台弱になる見込み ～ 対前年比で微増の成長となるが、CSTNは前年比でマイナス約40%と大幅に減少～

株式会社テクノ・システム・リサーチ（東京都千代田区岩本町 3-7-4 代表取締役 藤田正雄）は、2009年11月末に携帯電話向けメインディスプレイ市場に関する季刊調査報告書『Mobile Display Quarterly Information B Display 編』の2009年第3四半期号を発刊しました。

2009年第3四半期までのメインディスプレイの総出荷台数は約9億6千万にのぼった。2009年の総出荷台数は携帯電話需要の回復を受けて12億9千万台を大きく上回り、13億台に近づく見通しとなった。2009年の携帯電話市場が対前年比でマイナス成長となる見込みだが、ディスプレイの出荷は辛うじて前年を上回る出荷となる見込みとなった。

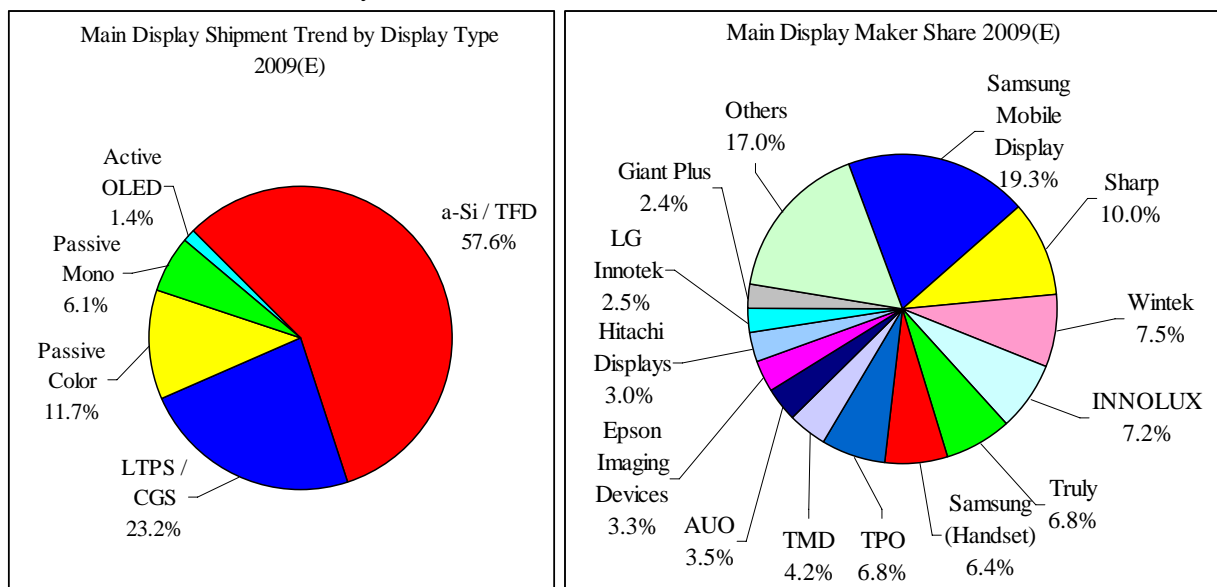


第3四半期の市況を見てみると前年同期比および対前四半期比でもプラス成長となっている。ただし、各携帯電話機メーカーがローエンド～ミッドレンジ製品の生産を強化したため、Monoやa-Siの出荷が好調に推移した一方で、LTPSは出荷量が減少した。

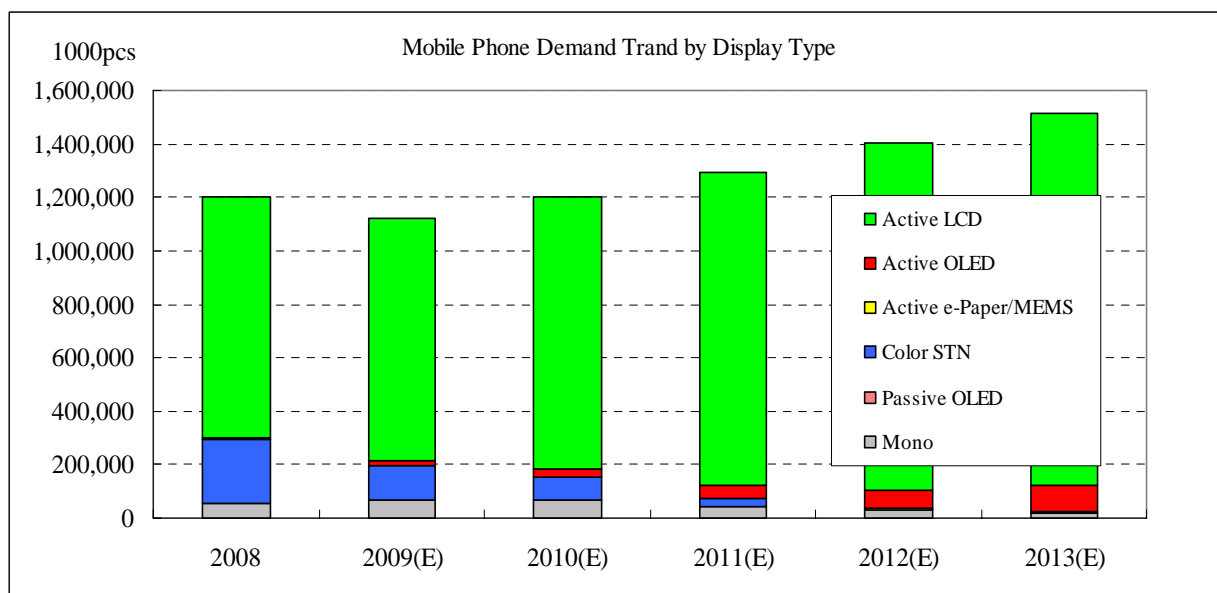
2009年の総出荷台数におけるディスプレイの方式別シェアを見てみると、引き続きa-Si/TFDのシェアが圧倒的に高くなっており、全体の6割弱を占めている。続いてLTPS/CGSが2割強を占めている。また、景気低迷の影響を受けてローエンド製品の生産・出荷が増えたことにより、Monoのシェアが伸びてきた。さらに、2008年は全体の1%にも満たなかったActive OLEDが2009年に入りNokiaやSamsungなどの搭載量が増えてことで大きく数量が伸びた。

2009年総出荷台数のメーカー別シェアではSamsung SDIとSamsung AM-LCDの中小型事業部を統合して今年から発足したSamsung Mobile Displayがトップに立ち、日系のSharpが2位に入る見込みである。次

いで Wintek や INNOLUX、Truly などが続くと見られる、これらはほぼ横並び状態にある。



長期トレンドとしては、ディスプレイ価格の下落を受けて引き続き Active LCD の割合が高まっていくとともに、CSTN が徐々に市場から消えつつある。Active OLED は搭載製品の増加に伴い、徐々に数量を伸ばしていくことが期待される、また、ローエンド製品への根強い需要から Mono の出荷は数量を落しつつも、一定のシェアを今後も維持していく見込みである。



【資料紹介】

『Mobile Display Quarterly Information A Display 編』は携帯電話向けメインディスプレイの出荷台数を四半期毎に統計をとってまとめた調査報告書で、ディスプレイメーカーと携帯電話機メーカーとの供給関係なども盛り込んでおります。

【プレスリリース及び資料のお問い合わせ先】

株式会社テクノ・システム・リサーチ

第2グループ 武花勇一(takehana@t-s-r.co.jp) 岸川弘(kishikawa@t-s-r.co.jp) 戸波勝徳(tonami@t-s-r.co.jp)

TEL:03-3866-4505 / e-Mail:info@t-s-r.co.jp